

戦火逃れ150万人国外へ

「難民危機」急拡大 国連高等弁務官

ウクライナ

ロシアによるウクライナへの軍事侵襲の開始(2月24日)から50日たったが、戦火から逃れ国外へ避難するウクライナ難民は、150万人にまで達している。

これは、第2次世界大戦終結後の欧州で最も急拡大している「難民危機」だ。電話取材にこう強調

WHO 医薬品不足や感染症懸念

WHOによると、ウクライナからポーランドやハンガリーなど近隣諸国に逃れた難民は、136万28864人です。



ウクライナと国境を接するポーランド南東部コルチョバの難民収容センターで休憩をとる人たち(5日、ロイター)

世界保健機関(WHO)が5日に発表した報告書は、ウクライナ国内の「1800万人以上が影響を受けている」と指摘。医薬品や医療機器・物資の不足、医療施設へのアクセスの困難による外傷の悪化、新型コロナウイルスなど感染症のまん延などを懸念しています。

「人道回廊」は失敗

「人道回廊」の設置が失敗されています。攻撃や非難が、人道回廊の設置が失敗されています。攻撃や非難が、人道回廊の設置が失敗されています。

ロシア軍は実効支配するウクライナ南部のクリミア半島や、東部の親ロシア系地域の支配を固めており、攻撃再開でマリウポリの制圧を図るとみられます。

この事態を受け、赤十字国際委員会(ICRC)は5日、声明を発表しました。同委員会は「人道回廊の設置は紛争当事者の合意を得た十分に計画し、実施されなければならず」と要求。「紛争当事者は(難民人道法の下で)市民と民間インフラを保護し続けなければならない」と訴えています。

マリウポリでは5日に限定的停戦に入りましたが、市当局は「ロシア軍は停戦を守らず、砲撃を続けています」と非難。ロシア側はウクライナが攻撃していることを主張しました。

ロシア軍は実効支配するウクライナ南部のクリミア半島や、東部の親ロシア系地域の支配を固めており、攻撃再開でマリウポリの制圧を図るとみられます。